

つながるスイツ干!!

久留米市社会福祉協議会



vol.4

支え合い推進会議 —その②— 「草野校区」の取り組み

草野校区は、高齢化率が40%を超えています。「今後も若者がどんどん減っていく、高齢化が深刻になるのではと、誰もが不安を感じていました」と宮崎会長は話します。久留米市からの提案もあり、「支え合い推進会議」を立ち上げるようになりました。草野校区支え合い推進会議は、草野校区社協連絡会メンバーを中心に選出。校区社会福祉協議会(会長・副会長、民生委員児童委員協議会(会長、ふれあいの会(会長)、学童保育所運営委員会(会長)、自治会連絡協議会(会長)、老人クラブ連合会(会長)、校区まちづくり振興会(事務局長)。そこに、市社協の生活支援コーディネーターや地域包括支援センター、保健所職員が加わり平成29年6月から会議をスタートさせました。

●草野校区支え合い推進会議のメンバーは？

支え合い推進会議の様子を紹介していくシリーズ第2弾。今回は、いち早く支え合い推進会議の取り組みをスタートさせた「草野校区」をご紹介します。

- 草野校区支え合い推進会議 会長 宮崎律志さん
- 草野地区民生委員児童委員 國武郁子さん
- 草野校区まちづくり振興会 事務局 上田桂司さん

3名の方にお話しをお聞きしました。

●実際にどんな取り組みをしているの？

(1) ニーズ調査

支え合い推進会議は2か月に1回のペースで開催。実際、草野校区の高齢者の皆さんがどういったことに困っているのか困りごとを具体的に把握するためのアンケート「ニーズ調査」を実施しました。草野校区にお住まいの75歳以上の一人暮らしの高齢者や高齢者のみ世帯を対象に民生委員さんが直接聞き取り調査。ただ調査票を配るだけでなく、直接聞き取りながら民生委員さんが調査票に記入していきました。「民生委員さんたちには苦労をかけたが、一緒に時間をかけて調査票を完成させることで、新たな話題も生まれたり、コミュニケーションにもなりました」と宮崎会長。1か月かけて調査し、120件の回答を得ることができました。ニーズ調査の結果は…困りごとの内容は多い順に、1位…庭木の剪定、2位…病院への送迎、3位…物の修理、4位…ゴミ出し、5位…電球の取り替え、買い物の送迎・代行

(2) 担い手調査

ニーズ調査と同時に、住民同士の助け合いの意識がどれぐらいあるのか草野校区全世帯を対象に「担い手調査」も実施。518件もの回答がありました。(回答率…約80%)担い手調査の結果は…支え合い(例…困ったときに、隣近所で助け合うこと)に関心があると回答された方は、80%もいらっしゃいました。できる内容については、

多い順に、1位…ゴミ出しや分別、2位…品物を代わりに買ってくる、3位…集まる場所へ連れて行く、4位…買い物に連れて行くという結果になりました。

●「草野支え愛クラブ」発足

草野校区の支え合いの取り組みを「草野支え愛クラブ」と名付け、まずは「草野支え愛クラブ養成講座」を開催しました。支え合いに興味がある担い手約40名が参加し草野校区の現状や、ニーズ調査の結果などの説明を行いました。担い手の皆さんができること、そしてニーズ調査票の内容も含め草野支え愛クラブでは「ゴミ出し」と「買い物代行」の2つのニーズに対応することに決定しました。この2つのニーズに対応することについて宮崎会長はこう話します。「実際、何に取り組みかは会議でも何度も話し合いました。困りごと1位の庭木の剪定は、草野校区にたくさんの方たちのプロの方たちが



いらつしやる。それを支え合いの取り組みで行うことに違和感を感じ、この困りごとには庭業者さんやシルバー人材センターを紹介することにしよう

と決定しました。困りごと2位の病院への送迎は、以前から、草野校区は久留米市のコミュニティタクシー制度を取り入れていたのでこの制度で対応できると判断しました。最終的にまずは、担い手調査の結果が多かったゴミ出しと買い物代行に取り組みようと決定しました」

「暮らしのちょっとした困りごと、お任せください！」をキャッチコピーにして作ったゴミ出し、買い物代行の依頼募集のチラシを民生委員さんが草野校区にお住まいの75歳以上の一人暮らしの高齢者、高齢者のみ世帯に配りました。また、担い手を募集する「活動ボランティア募集」のチラシも草野校区全世帯に配りました。50円×20枚綴り1000円でチケットも作成。

登録制にして、登録している人同士を家が近いなど条件が合う人同士でマッチング。まずは顔合わせをして、活動内容の確認をし活動をスタートさせました。

令和2年2月からスタートした「草野

支え合い推進会議を通して実際に取り組んだことで、今はまだそこまで高齢者が困っていないこと、そして、元々、住民同士の繋がりが強い地域なんだと改めて気付くことができました。しかし年々、若者が減り、高齢者が増えていついていけるのは事実。せっぱ詰まってからでは遅い。今のうちに、土台を作ることができてよかった

●活動して感じたこと、今後のこと

●宮崎会長

支え合い推進会議を通して実際に取り組んだことで、今はまだそこまで高齢者が困っていないこと、そして、元々、住民同士の繋がりが強い地域なんだと改めて気付くことができました。しかし年々、若者が減り、高齢者が増えていついていけるのは事実。せっぱ詰まってからでは遅い。今のうちに、土台を作ることができてよかった

「ゴミ出し4名、買い物代行1名」コロナ禍が重なったこともあり、利用者が少ないのが現実でした。ゴミ出しは、「草野支え合いクラブ」を利用しなくても近所の人が手伝ってくれる」という声が多く、元々のご近所付き合いが今も根づいていることがわかりました。買い物代行は、自分自身で直接目で見て買いたいという気持ちの人が多く利用者が少なかったようです。「とにかくやってみよう！の気持ちで、支え合い推進会議に取り組んでみました。やってみたことで、新たな課題や、草野校区の良さも見えてきました」と宮崎会長。

●國武さん

「ゴミ出しサポーターをしている時に、「一日誰とも話さなかった。あなたが来てくれてよかった」と言われたことがとても嬉しかったんです。支え合いは、高齢者の見守りにもなります。地域全体が支え合い、皆が安心できる暮らしのお手伝いをしていきたいと思っています。」

●上田さん

「まずはやってみないと、何がよくて何が悪いかわからない」の想いで皆、進んできました。印象的だったのが「草野支え合いクラブ養成講座」を開催した際、「いつもしていること」「わざわざ団体を作らなくても」「お金をいただくことではない」等の声をいただきました。元々この地域には支え合いが根付いているのだとわかり、嬉しかったです。そして最近、事務局に無理難題な要望の連絡があることも(笑)。「支え合いクラブがなんとかしてくれ」と、困った時に頼りにされていることも嬉しかったです。私たちは、地域が中心となって頑張り、支えていく気持ちで、これからも頑張ります。

●取材を終えて

「やってみよう」を合言葉に、スピードとやる気に溢れる草野校区。國武さんがゴミ出しサポーターの際、1回に4袋を出される人がいて、対応に困り宮崎会長に相談。「問題がでたら、その都度解決していこう」と、会長判断で途中で規約をすぐに変更。「1回に出すゴミ袋は2個まで」と決まりごとが増えたそうです。「活動チケット(50円)を渡すにいく」「渡す

のを忘れてしまう」との声があり、ゴミ袋にチケットを貼るようになったのもやってみて、やりやすい方法を見つけたから。草野校区は活動しながら、皆が利用しやすいように進化し続けています。

宮崎会長は、動くことが大好きで多趣味。グランドゴルフに水彩、ダーツ、ゲートボールなどほぼ毎日、趣味活動されています。國武さんも体を動かすことがリフレッシュ法のこと。朝、ラジオ体操をするのが日課だそうです。上田さんは、自宅に温室を建ててブーゲンビリアを育てています。久留米は椿で有名ですが、草野にあるつばき館は、椿が咲く冬の時期にしか観光客が訪れません。つばき館で夏の時期にブーゲンビリアを咲かせ、一年中観光客で賑わう草野を目指しているそうです。



上田 桂司さん 宮崎 律志さん 國武 郁子さん

- とにかくやってみよう！やってみないと何が良くても何が悪いかわからない。
- チラシを作り、依頼者(ニーズ)と協力者(サポーター)を募集。登録制にして、依頼者と協力をマッチング。
- 実際に利用者は少なかったが、今は土台づくり。近い将来、深刻化する高齢化社会に向けた次の目標も見えてきた。
- 調査することで草野校区の良さも再発見。

久留米市社会福祉協議会

〒830-0027 久留米市長門石1-1-34
TEL: 0942-34-3035
FAX: 0942-34-3090
メール: heartful@heartful-volunteer.net
HP: <http://www.heartful-volunteer.net>

久留米市社会福祉協議会 検索

webサイト
[note—つくる、つながる、とどける。]で
「つながるスイッチ!!」を検索してください!



次回のつながるスイッチ!! vol.5も引き続き「支え合い推進会議」各校区の取り組み「その③」(金島校区)を紹介しします。

つながるスイッチ!!はHPでもwebマガジンでも掲載中